

市営バス「イナカー」を 利用ください

市では、昨年10月1日から市営バス「イナカー」の運行を開始しました。

市民の皆さんには、幼稚園や小中学校、高校への通園通学、通院や買い物などの交通手段として利用いただいています。

この市営バス「イナカー」は、現在、実証運行をしており、今後、路線維持に関する市の基本的な考え方を踏まえ、路線ごとに評価し、必要に応じて運行計画を見直すこととしています。

実証運行後も継続して運行



▲市営バス「イナカー」(河野辺線・但東町平田)

市営バス「イナカー」の利用状況

(平成20年10月1日～12月31日)

路線名	利用者数(人)			1便当たり利用者数(人)		
	一般	通園通学	計	一般	通園通学	計
気比三原線	539	1,180	1,719	0.81	1.77	2.57
宇日日和山線	46	-	46	0.13	-	0.13
赤石線	964	-	964	1.77	-	1.77
竹野海岸線	942	3,596	4,538	1.00	3.82	4.82
竹野三原線	1,118	1,083	2,201	1.10	1.07	2.17
床瀬線	1,086	1,216	2,302	1.07	1.20	2.27
三方線	1,483	-	1,483	1.53	-	1.53
八代線	433	-	433	1.18	-	1.18
奥山線	80	745	825	0.22	2.04	2.25
奥小野線	74	-	74	0.20	-	0.20
天谷佐々木線	116	3,848	3,964	0.17	5.73	5.91
河野辺線	1,656	6,464	8,120	1.43	5.59	7.02
合橋資母高橋線	58	-	58	0.15	-	0.15
計	8,595	18,132	26,727	0.97	2.05	3.03

※一般利用者は、幼稚園・小中学校への通園通学者を除いた利用者です。

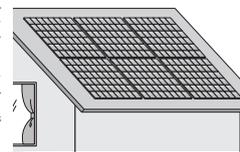
※一般利用者の利用状況で路線を評価します。

し、現在のサービス水準を確保するためには、現在利用している方のみならず、地域全体で積極的なバスの利用をお

願います。また、J RやK T R(北近畿タンゴ鉄道)、路線バスなどの公共交通機関の利用者も年々減少しています。私たちのまちの公共交通機関を維持するために、皆さんの利用をお願いします。《問合せ》都市整備課交通政策係 ☎ 23-1712

住宅用太陽光発電システムの 設置を支援します

太陽電池出力1キロワット当たり
5万円(限度額20万円) -



市では、自然エネルギーの利用を促進し、地球温暖化を防止するため、太陽光発電システムの設置を推進しています。

既に、防災行政無線放送や市ホームページなどでお知らせしていますが、1月13日の国(経済産業省)の補助制度の受付開始と合わせて、市の補助金の受付を開始しました。国の制度(太陽電池出力1キロワット当たり7万円)と併用すると、最大で太陽電池出力1キロワット当たり12万円の補助が受けられます。詳細は、コウノトリ共生課環境政策係まで問い合わせください。

- ▽補助金額 太陽電池出力1キロワット当たり5万円(限度額20万円)
- ※予算の範囲内で先着順
- ▽申込方法 コウノトリ共生課、各総合支所市民生活課 または市ホームページにある申請書に必要事項を記入の上、申し込みください。
- 《申込み・問合せ》コウノトリ共生課環境政策係 ☎ 21-9017 または各総合支所市民生活課
- 《国の制度の申込み・問合せ》財団法人ひょうご環境創造協会 ☎ 654-0037
- 神戸市須磨区行平町3-1-31 ☎ 078-7335-2738
- FAX 078-7335-2292
- ホームページアドレス <http://www.heea-salon.or.jp>





目指せ! 山陰海岸ジオパーク

シリーズ② 日本列島の生い立ち(前編)

市では、京都府・兵庫県・鳥取県の民間団体や行政機関と連携し、竹野海岸、日和山、玄武洞公園などの山陰海岸国立公園や神鍋高原などを中心としたエリアを、「山陰海岸ジオパーク」として、世界ジオパークネットワークへの登録を目指しています。このジオパークについて、北但層群化石研究会代表の三木武行さんに、シリーズで紹介していただいています。

《問合せ》観光課 ☎21-9016

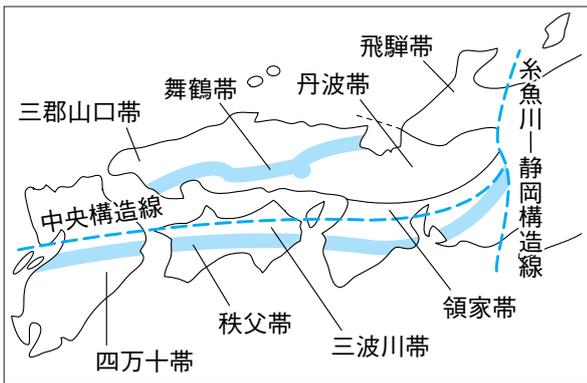


▲淀の洞門(竹野町切濱)

山陰海岸国立公園は、山陰が直接、日本海に接する所が多く、断崖、洞門、小島などが発達する岩石海岸と、河川と海水による砂質海岸とを繰り返す変化に富んだ景観を形成しています。

また、但馬海岸から少し南下すると、氷ノ山後山那岐山、神鍋山などの火山地形があります。これらは地球のダイナミックな活動を私たちに語りかけてくれます。

これらの景観を作った大地の動きを理解することは、ジオパークの目的でもあり、但馬の自然を保護・保全し、産業や教育に活用しながら地域の活性化を図ることもつながります。



▲日本列島の基盤

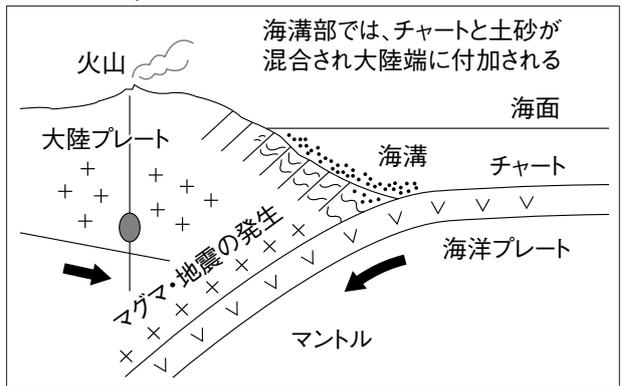
私たちの大地(日本列島)を形成している岩盤は、数億年かかって大陸の一部として発展してきました。海洋プレートの大陸プレートの下に潜り込むことにより地震や火山活動を発生させ、大陸から運ばれた土砂と遠海で生成したサング礁やチャート(石英からなるち密で硬い堆積岩。放射線などの遺骸を多く含む)が、海溝部で混合され、大陸側に次々に付加することによって、海溝に並行して帯状に大陸が成長したのです。

やがて大陸の端の部分は、火山活動が盛んになり、カルデラ(火山の噴火後に火口部に陥没した円形の大きなくぼ地)になったり、引き裂かれたりして湖や海ができます。

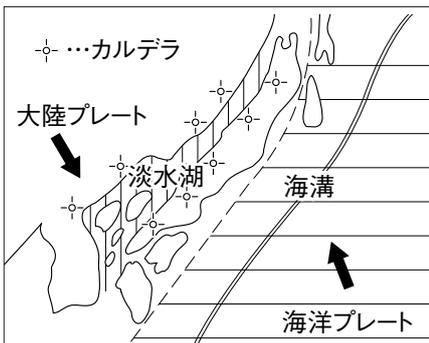
但馬は、この岩盤の上に火山岩や堆積岩の地層(北但層群や照来層群)が堆積した地域なのです。

岩石、化石、鉱物の種類や分布、放射性物質による岩石の年代測定、古地磁気によるプレートの移動などの証拠を丹念に調べる中で、

私たち



▲大陸端の断面



▲約2500万年前

近年では、竹野、香住、村岡の八鹿層が分布する地層から大型ほ乳類のゾウやサイの足跡化石や淡水性の貝化石が見つかっています。

名前が付けられる。

日本列島形成のシナリオが次のように明らかになってきました。

約27000~20000万年前 (新生代中新世初期)

アジア大陸の東端で火山活動や地殻変動が盛んになり、大陸の縁が割れ始めます。そうしてできたカルデラや陥没したくぼ地を埋めるように、土石流や溶岩、火山砕屑物が堆積しました。それが北但層群の高柳層や八鹿層です(地層は詳しく調べられた地域の名前が付けられる)。

ア